

ふらっぶ通信

社会福祉法人

なづな学園

サービスセンター

ふらっぶ

『地域福祉は近いのか、遠いのか』

ふらっぶ 須山 眞行

昨年、神奈川県内の障害者施設で発生した人の命が奪われる惨劇は、忘れることが出来ない。この紙面をかりて改めて「冥福をお祈りしたい。

最近の新聞記事で、当の施設の建て替え計画に際して、大規模施設では地域との接点が増え、小規模施設に分散して地域の中に溶け込んで行くべしなどの多様な意見のあることが紹介されていた。地域の人々との関わりに焦点をあてた論議の様相であろう。

自分の生まれ育ったところで、地域や地域の人々と共生しながら生活を維持して行くことが、高齢者に限らず、障害のある人々についても、最も大切であるとする地域福祉理念が声高く叫び続けられて久しい。そしてそれを下支えする国や自治体の施策は充実してきた。

さて、地域福祉の具体的な中身は何かと問われると「返答に困る。

数々の解説から言葉を拾うと、高齢者や障害のある個々の利用者の生活ぶりが地域の中の一事項として位置づけられ、日常の見守り・声掛け・時には何らかの支援活動が展開されるなどの相互関係が形成されていくこととされる。もちろん、高齢者や障害のある人々も、ここに人間の生活ありと存在感を発揮して行くこともその一部であろう。

こうした前提に立つとき、私達障害福祉サービスの提供事業所は一体どこでどのような役割を果たしているのだろうか。毎日、夕方頃になると、ふらっぶ職員やヘルパーから、その日の生々しい支援状況が携帯電話などを通じて飛び交う。

自宅における家事援助やどこかへ外出しての支援の場面は問わない。まぎれもないのは利用者や支援者が一時を共にし、必死に生活を進めている事実である。

この場面展開が地域の人々の目に、どの様

に映っているかは差があるにしても「私たちは地域の中で精一杯生きて行こうとしているのよ」の実像が日々一段ずつ積みあがって来ているものと自負している。



口幅ったい言い方が許されるとすると、ならば地域・地域住民の立ち位置はどうなっているのだろうか。最近では、福祉の領域に関わらず、地域そのものが変形、弱体化しつつあるのではないかと私見を持っている。少子高齢化・人々の考えの多様化などによるものであるだろうか。一方、国や自治体は地域福祉を口にする時、地域や地域住民の手により地域福祉が高まればとする期待の表明で終わっている。あとは地域次第ですととも解釈できる。

先の施設建て替えの問題にも見られるように、当事者だけが一方的に意見を持ち出しても、地域社会全体がどの様に動き出すかがないと虚像になる。一度人々が立ち止り、地域福祉は何かを考えないと、どこかへ行ってしまいそうな気がする。

今年度は異動して4年目の年でした。流動的な日々の中で慌ててしまうこともまだまだありますが、ふらっぶでの支援や自分の生活が確立されてきているのだなあ、とも思っています。そんな中で新たな意見や考えにより多く触れることができた1年だったように思います。定着して安定することも沢山あると思いますが“変に”自分の考えや思いが凝り固まらないように…自分にもまだ吸収する余白はあるはず！と言い聞かせながら(笑)これからも前向きな視点で物事をみていきたいと思っています。

柳原 明花

皆さんこんにちは。今年は地元の大津でも積雪が見られ驚きました。さて早速ですが、今年頑長ったことで「自動車免許取得」を挙げたいと思います。何かを始めるといのは大変なことですね。自動車免許の場合は教習所に入る必要があります。この一步がとても億劫でしたが、振り返ってみると「とりあえず入校だけ…」が、いつの間にか「できるかも！」という自信に上手く繋がったかな？と思えました。その時々で辛くも楽しくもあるでしょうが、「大変やなあ」と考えるだけでなく、「これいいね！」という視点を持って取り組んでいきたいと思っています。

松田 健次

ふらっぶに来てから、あっという間に1年が経ちました。この1年は色々な方と余暇を楽しんだり、通院へ行ったり、お風呂のお手伝い等、生活の色々な場面でご一緒させていただく中で新しい経験が盛りだくさんでした。不慣れな点も多く迷惑をおかけしたかと思いますが、私自身楽しくお仕事をさせていただきました。また、皆さんが楽しんでいる姿が励みになっています。ありがとうございます！これまで、運動不足だった私はふらっぶへ来てから、走り方を思い出しましたよ！あと、京都の色々な場所を前より知れた気がします。

内海 栄子



今年度も終わりに近づいてきて振り返ると今年も皆さんにご迷惑おかけし通しの一年だったのではないかと、などネガティブな事が先行してしまします…が私はこの一年も皆さんとたくさん出かけられた事、お話しできたこと、本当に楽しい一年でした。

今年とはいうより近年私の体系（主に体重面）のご心配のお声をいただき、この一年は！でなく半年前からひそかに頑長っている事があります…それは出退勤の際自宅から駅まで歩く事です(笑)いつもは自宅からバスに乗って駅に向かっていましたが最近は少し自宅を早く出て歩いて駅に向かってます。プチ運動です。そんな事？と思われませんが今はこれが限界です。メタボリックシンドロームも気になりつつある年頃ですので来年度も継続して効果が出るのを期待しております。(無理だろうなあ…) 武野 靖之



ふらっぶ職員に聞きました！ 「この一年を振り返って」

昨年のふらっぶ通信で「日々考えることができる支援者でいたい」と書いておりました。一年振り返ってちゃんとできていたかなあと反省しております。春の暖かさでボーっとし、夏の暑さで思考は停止、秋の紅葉で気を取られ、冬の寒さで凍っていたかもしれません。

今年は主任の立場でふらっぶ全体を見てきました。その中で職員の日々の成長を傍で感じる事ができたことは一番の喜びです。悪戦苦闘しながらも真摯に利用者さんと向き合う姿は、反対に「自分も負けてられない」とやる気にさせてくれます。まだまだ課題や改善点はたくさんあります。しかしそれは伸びしろでもあります。新年度も日々コツコツ積み重ねていく中で、成長できたらと思います。ふらっぶの職員一人一人が考えることができる支援者になれるように、頑張りたいと思います。

渡邊 豊

去年の4月、新しい年度を迎え張り切っていた！と意気込んでから、早くも1年、気づけば今年度を振り返る季節になりました。

今年の夏は猛暑、冬は珍しく京都市内でも大雪になりましたね。

日々巡る季節の中で、利用者さんとたくさんおでかけし、楽しいこと、勉強になることがたくさんあった一年でした。来年度も皆さんとお出かけできるよう、まだまだ続く、冬の寒さや、ウイルスに負けないよう気を付けていこうと思います！

元木 友里恵

3月から1人暮らしを始め、今年度はひとりで生活することの大変さを実感した1年でした。支援から帰ると夕食が準備されている。そんな当たり前の日々感謝すらしていなかったなあと気付かされました。

慣れない家事に頭を悩ませることもありましたが、来年度はもう少し自分の気持ちに余裕を持って過ごしたいと思います。

そして、仕事の面でも気を引き締め、春からの新しい1年も変わらずみなさんと関わっていきたく思います。長畑 聖

今年度は、初めて異動があり、ドキドキワクワクしてふらっぶにきました。施設職員から居宅介護支援員へ大きな変化の一年でしたが、日々、支援を重ねることで、たくさんの方と出会い、色んなところへお出かけしました。また、たくさん話をして、興味のあることや好きな歌など教えてもらいました。とても新鮮な気持ちで、支援に望めた1年でした。

まだまだ、ふらっぶでは「1年生」。ますます成長していけるよう、皆さんと楽しみながら、頑張っていきたいです。よろしくお願ひします。千葉 聖

- 強度行動障害支援者養成研修(京都テルサ、7、10、2月)
- 対人援助のためのコーチング活用講座
(京都府中小企業会議、9、10月)
- 京都府障害者虐待防止・権利擁護研修
(京都テルサ、9月18日)
- 自閉症の支援を隔々に(呉竹文化センター、9月～11月)
- 利用者家族からの視点～家族から見る信頼、期待とは～
(支援センター「うきょう」、12月1日)
- 対人援助者のための勉強会・ケア(京都府社会福祉会館、12月12日)
- リスクマネジメント～現場職員の基礎知識と心構え～
(京都府中小企業会議、1月17日)
- リスクマネジメントセミナー(ひとまち交流館、1月19日)

利用者家族からの視点 (感想)

今回は普段なかなか聞くことの出来ない貴重なお話を聞くことができ、自身の支援を振り返るきっかけになりました。本人さんだけでなくご家族さんからの声も拾えるよう、日々の支援で信頼関係を築いていきたいと思います。



知的障害者移動支援従業者養成研修を9月に開催いたしました。会場はウィングス京都で開催し、15名の方が受講されました。受講されたみなさん長時間の講義と演習お疲れ様でした。またご協力いただいた講師の先生方ありがとうございました。



ヘルパー連絡会の開催

ふらっぶで活動していただいているヘルパーさんに年間を通して会議を行っています。会議には約20名ほどのヘルパーさんに毎回集まってもらい、予定や支援内容の確認、ヘルパーハンドブックの改定説明など行いました。また、職員が行った研修の報告をおこない、その内容でグループ討議を行いました。日々の支援で疑問に感じていることや悩みを意見交換しています。ヘルパーさん一人一人が意見交換できるような内容の会議を今後も行っていきたいと思います。

編集後記

今年度もあと少しとなってきました。早いもので4月にふらっぶに来てから、1年が経とうとしています。これまでの施設職員とは違った視点で、皆さんの支援に入らせていただき、非常に刺激的になり、改めて福祉の『面白さ』を感じた一年でした。これからもよろしくお願ひします。

また、今回の通信で、「研修報告」について取り上げました。なかでも『利用者家族の視点』は、職員間でも共有し、またヘルパーさんにも話し合う時間を設けたことは、私達にとって非常にいい機会となりました。利用者や保護者さんが普段、どういった視点で私達ヘルパーを見ているのか。考えさせられる研修でした。